

7代目は関脇・黒瀬川浪之助

7代目は、友綱弟子の関脇・黒瀬川浪之助が襲名した。

富山県射水郡(のち氷見郡)氷見町湊町(現・氷見市比美町)出身。明治18年3月20日生まれ。本名・本川竹松。

漁師の次男で、少年時代から地元の草相撲に参加し、近隣に聞こえた存在であった。



7代目の関脇・黒瀬川

15、16歳から漁師仲間に加わり、明治35年に海軍兵を志願して郡役所に向いたところ、郡長は彼の体格と、盤持で50貫目(187・5キロ)の巨石を持ち上げるのを見て力士になることを勧めた。しばらくして友綱部屋の有力後援者であった板垣退助伯の目に止まり、同郷(現在の富山市出身)の十両・太刀山(のち横綱)が所属する友綱(元前頭筆頭・海山)部屋に入門した。明治36年1月数え19歳(満17歳)に板垣伯の命名により黒瀬川の四股名で初土俵を踏み、37年1月序ノ口に出て下の名はなみ介と名乗った。草相撲で力量は付けていたため出世は順調で、翌5月に序二段、38年1月下の名を浪之介(浪之助)と変え、翌5月に三段目、39年5月に幕下、41年5月に十両入りとなった。十両も2場所通過し、両国国技館開館の記念すべき42年6月場所に数え25歳(満24歳)で新入幕を果たし、43年5月には「越中」頭書となった。178センチ、101キロ前後の均整のとれた体格で、左四つの典型的な相撲で、寄り、吊り、さらには二丁投げ、二枚蹴りなども得意とした。部屋先輩である國見山、太刀山の薫陶を受けて技量にも磨きがかかっていった。また、「やさ男」の風貌は、女性ファンを魅了し、土俵外での人気も高かった。その一方、玉突き、野球観戦、三味線などを趣味とした粹人でもあった。入幕後数場所は中堅力士的存在であったが、大正2年1月の西前頭筆頭で横綱・常

陸山、大関・西ノ海と引き分け、大関・駒ヶ嶽と預かりを演じ、4勝1敗3分2預の成績を挙げ、翌5月関脇に昇進した。その後は三役から前頭上位に定着して、横綱・西ノ海を倒したり(6年1月)、新鋭の栃木山(のち横綱)に連勝した(4年6月、5年1月)こともある。当初は単調で勝ち味が遅かったが、年齢を重ね土俵経験も加わり、攻めに変化と速さが添えられた。温厚な性格で、仲間内の受けはよく、花形力士の1人として土俵を飾った。

幕内在位12年半、26場所、うち関脇・小結を各2場所務め、大正10年5月場所後に師匠・友綱が隠居、黒瀬川も翌11年1月場所の番付では西前頭10枚目にあつたが場所前に数え38歳(満36歳)で引退し、年寄・谷川(7代目)を襲名した。

引退するとすぐに大正11年1月から内弟子1人を連れて独立、京橋区木挽町二丁目十三番地(現・中央区銀座2丁目14あたり)で部屋を開いた(「瀬川旅館」も経営)。

引越しては、その家をきれいにして転売するのを得意とし、昭和12年には小石川区第六天町四十二番地(現・文京区春日2丁目8周辺)に移転、14年には麴町区永田町二丁目一番地(現・千代田区霞が関3丁目7周辺)、16年には世田谷区下馬町二丁目一四〇番地(現・世田谷区下馬6丁目16周辺)、17年には本所区東両国一丁目一番地(現・墨田区両国1丁目12周辺)に移り住み、弟子も育成していた。戦時中は神奈川県鎌倉郡鎌倉町(現・鎌倉市)材木座の2階建ての別荘に疎開、当時伊勢ヶ濱部屋の幕内力士だった若瀬川泰二(のち小結、年寄・浅香山)夫妻とともに住んでいた。

一方、協会内では勝負検査役(現・審判委員、大正12年3月9日、昭和2年1月8日)、理事(昭和2年1月8日、3年1月7日)、監事(3年1月7日、20年11月30日、12年5月の番付には誤って理事と書かれていた)の要職を歴任し、協会興隆の一翼を

担ったことは、人望の厚さがうかがえる。また勸進元は5回(昭和2年5月、6年1月、9年5月、12年5月、15年5月)務めている。

なお、戦時中に全国で行われていた「相撲体操」は彼が考案したものだともいわれ、これを東京・小石川区(現・文京区)の小学校で初めて実地で行わせている。

終戦となつて世の中は混乱期を迎え、相撲どころでない生活を余儀なくされた。その中で彼は20年11月限り角界に見切りをつけ、弟子を伊勢ヶ濱(元関脇・清瀬川)部屋に預け満60歳で角界を去った。協会在籍中は残念ながら関取は生み出せなかったが、唯一、同郷(現在の富山県氷見市出身)の愛弟子だった有磯海進(のち黒瀬川)が伊勢ヶ濱部屋に移籍後の22年11月に十両入りを果たし、十両5枚目まで進んでいる。

廃業後は一時郷里・氷見に戻ったが、間もなく再上京。「瀬川旅館」も人に譲り、港区赤坂伝馬町(現・港区元赤坂1丁目)に引きこもり、悠々自適の生活を送っていた。熱心な浄土真宗の信者であり、帰依して晩年を過ごしていた。

昭和32年12月28日に自宅で脳溢血で倒れ、12月30日の夕方に満72歳で亡くなった。本葬は33年1月7日に、東京・中央区築地の築地本願寺で行われ、時津風理事長(元横綱・双葉山)以下全理事が参列して盛大に行われた。墓も、東京・杉並区永福の築地本願寺和田堀廟所に建てられている。

郷里・氷見市幸町の朝日山にはかつて土俵があり、その後朝日山公園になって「黒瀬川関力之碑」が建てられていたが、のちに氷見市朝日町の上日寺に移されている。